

港区長 殿

2022 年 3 月 31 日

令和3年度第三者評価結果報告書

〒153-0063
住所 東京都目黒区目黒2丁目10番
5の101号
電話番号 03-3495-4283
評価機関名 特定非営利活動法人
関東シニアライフアドバイザー協会
代表者氏名 佐藤 昌子

下記のとおり評価を行ったので報告致します

対象事業所	放課GO→クラブしろかねのおか												
評価者	1	山田 紀子											
	2	田尻 由起											
	3												
	4												
評価実施期間	2021	年	8	月	6	日	～	2022	年	3	月	31	日
利用者調査実施時期	2021	年	10	月	1	日	～	2021	年	11	月	10	日
訪問調査日	2021	年	12	月	8	日							
評価者合議日	2021	年	12	月	24	日							
評価結果報告日	2022	年	3	月	31	日							

詳 細 講 評

評 価 基 準

A	評価項目を実施している
B	評価項目を実施しているが十分ではない
C	評価項目を実施していない

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

通番	評価項目	評価	講 評
	(1) 理念・基本方針が確立・周知されている。		
1	① 理念・基本方針を確立・明文化し、職員及び利用者等に周知している。	A	当法人は職員の協働労働を理念とし、7つの原則を明文化しています。職員には、職員向け冊子の中に宣言・7つの原則を記して配布したり、職員会議や研修等で読み合わせを行い周知をしています。保護者に対しては、保護者会等で法人理念をリーダーが説明する機会を設けています。

I-2 運営状況の把握

通番	評価項目	評価	講 評
	(1) 運営環境の変化等に適切に対応している。		
2	① 事業運営を取り巻く環境と運営状況を的確に把握・分析している。	A	当学童クラブは85名の児童が在籍していますが、8割は1,2年生のため子どもたちにまだ幼児期の発達の特徴が見られる時期となります。そのため職員は身近にいて、子どもたちにとって安心して頼ることができるよう、見守りながら育成支援を行っています。学校内の学童クラブとしての長所を活かしながら日々の運営やイベントに様々な工夫を凝らしたり、区や法人の求めているクラブの在り方について日々模索しながら職員間でミーティングを行って意見を出しあい、情報を共有するようにしています。
3	② 運営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	A	

I-3 事業計画の策定

評価項目	評価	講評
(1) 中・長期的な目標と計画が明確にされている。		
4 ① 3～5年の中・長期的な目標を明確にした計画を策定している。	A	管理委託時に区に提示された提案書が中・長期計画に当たります。法人策定の中長期計画に基づいて、単年度の年間事業計画を策定しています。事業計画は全職員が参加する会議にて報告が行われ、職員に周知しています。中・長期計画をもとに、今年度は5つの目標を立てて具体的に取り組んでいます。また、新型コロナウイルス対策を最優先にした新しい生活様式を取り入れて子ども、保護者、職員それぞれが安心・安全な生活の場として考えていけるようにしています。
5 ② 中・長期計画を踏まえた年度の計画を策定している。	A	
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6 ① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	A	年間事業計画を作成する際には、2～3ヶ月ごとに月のねらいを定め、入学・進級お楽しみ会や一輪車教室、ハロウィンの仮装パレードなどの特別行事や毎月のお誕生会、安全指導等が計画されています。1年を通じて、子どもが環境に慣れ、仲間と交流したり様々な人と関わりながら自主性や創造性を発揮できるように取り組んでいます。
7 ② 事業計画を子どもや保護者等に周知し、理解を促している。	A	保護者には、入会説明会や個人面談、毎月のおたより等で、丁寧に説明するように努めています。また、子どもたちに伝える時には帰りの会等で分かりやすく伝えていきます。また、子ども会議(子どもサミット)で、子どもたちの意見や要望を取り上げたり、他の子の意見も大切にできるようにしています。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

評価項目	評価	講評
(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8 ① サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	A	東京都や港区で行われている研修、法人内研修に参加し、新たな知識を得るとともに職員間で情報を共有できるようにしています。他事業所のヒヤリハット報告からも気づきや学びを得ながら、子どもたちの安心・安全につながるようにしています。
9 ② 組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	A	法人の研修は今年度はコロナ禍での研修となり、オンラインを使って全国の事業所と互いの実践報告や子どもの遊び方等を学び実践に活かすなど、法人内での新たな繋がりの中でサービスの質の向上に努めています

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	評価項目	評価	講評
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
10	① 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている。	A	職務一覧表を作成し、職員や管理職等の職務を明確にしています。法人の事業計画書や事業報告書も職員に配布し、周知しています。また、会議や研修等の機会を通じて、クラブの方向性を明確に示し、職員が同じ目標に向かえるように働きかけています。1日1回ミーティングを行い、職員の間でも共通認識が持てるようにしています。学童クラブの概要が児童福祉法や放課後児童クラブ運営指針を改めて職員間で確認するなど、これらの理念に沿った運営を行っていただけるような取組が望まれます。
11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	B	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
12	① 学童クラブの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	A	法人の3つの基本方針に基づいて、学童クラブ運営の考え方、取り組みが示されて質の向上を図る取り組みが実施されています。月1回、責任者は責任者会議に出席し、各経営・衛生・人材会議について話し合いを行っています。当放課GO→クラブと三光学童クラブとの合同会議では地域やそれぞれの学童クラブの課題や改善点を洗い出し、運営に活かせるようにしています。
13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	A	

II-2 福祉人材の確保・育成

	評価項目	評価	講評
(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組を実施している。	A	所長や責任者は法人内の人材プロジェクトチームに参加し、子ども関連施設と合同で人材確保を行っています。子どもに向き合う姿勢や熱意を持ち、時代や地域の新しいニーズを柔軟に受け止められる視野の広い人材を求め、確保に努めています。職員一人ひとりが働き続けたいと思う職場を目指すために、育児や介護等の休暇を充実させたワーク・ライフ・バランスの推進、メンタルヘルスケアやヒアリング等を実施して職員の心身の健康の配慮等を行い、安定して長く働き続けられるように取り組んでいます。
15	② 総合的な人事管理が行われている。	A	

評価項目	評価	講評
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16 ① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	A	悩みやストレス等が体調不良の原因とならないよう、責任者が定期的にヒアリングを行っています。本部に健康管理室を設置し、必要に応じて専任の産業看護師が施設を巡回してメンタルヘルスケアが行えるようにしています。また、全職員対象に働きがいや職場環境等に関するアンケートを実施し、職場の環境改善に取り組んでいます。
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17 ① 職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し実施している。	A	東京都・港区・法人内などの研修に1名以上の職員が参加し、得た知識は職員間で情報共有をしています。また、放課後支援員研修に毎年2名以上習得に向けて受講していますが、職員一人ひとりの個別の研修計画が立てられていません。 職員により必要な知識やスキル、目標がそれぞれ違うため、個別の研修計画を作成することを期待します。
18 ② 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	B	

II-3 経営の透明性の確保

評価項目	評価	講評
(1) 事業主体の経営の透明性を確保するための取り組みが行われている。		
19 ① 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組を行っている。	A	透明性の高い施設運営を目指して、積極的に情報公開を行っています。年2回放課GO→クラブしろかねのおか運営協議会を行い、区の担当をはじめ学校や地域関係者、保護者等に運営報告や子どもたちの様子等を報告するとともに地域の情報収集の機会ともしています。毎月利用状況やイベント等の収支報告を行って運営状況が職員でも分かるようにしています。また、おやつ代については年2回保護者に直接監査をもらい、保護者にとって透明性のある会計となっています。
20 ② 運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。	A	

II-4 地域との交流、地域貢献

評価項目	評価	講評
(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
21 ① 学童クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている。	A	ハロウィンイベント時には、子どもたちはそれぞれ仮装をして自分で作った袋をもち商店街の店舗に協力してもらって楽しく回ることが出来ました。おやつも地域の商店を利用しています。子どもたちを見送る時には当クラブの指導員だと地域の人たちに分かるように放課GO→クラブたかなわだいと書かれたTシャツを着てるなどの工夫をしています。
22 ② ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	B	ボランティアの受け入れについては、大学のサークルや地域の専門家など所長自らが人材発掘を積極的に行っていますが、ボランティア活動を受け入れる際の守るべき内容等の確認書を作成してサインをもらうなどの取り組みが求められます。
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
23 ① 学童クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携を図っている。	A	子ども家庭支援センターや児童相談所などと連携し、必要時には連絡をとるようにしています。また、豊岡児童館の高輪交流会に参加して地域の情報交換を行っています。近隣の保育園との関係づくりも今年は施設長がサンタ役をするなど、着実に築いています。
(3) 地域の福祉向上のための取組が行われている。		
24 ① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っている。	A	当学童クラブは白金の丘小中学校内に設置されているため、小学校とは日々連携して運営されています。また、所長は三光学童クラブの施設長を兼ねているため、地域との関係も学校内の施設としては、行事に協力してもらったり、子どもたちに絵本の読み聞かせを行ってもらったり、活発な活動を行うことが出来ています。子どもたちの安全のための見守りも地域の協力のもとで行われています。
25 ② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動を行っている。	A	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

評価項目	評価	講評
(1) 子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている。		
26 ① 子どもや保護者等を尊重した福祉サービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。	A	子ども一人ひとりの主体性を大切にすること、保護者との連携を基本理念として運営に当たっています。全職員が理念を理解し、共有できるように職員ミーティングを毎日3回行っています。団会議と呼ばれる職員全体会は月1回実施し、事業計画の読み合わせや基本理念の確認や学童クラブの目的、生活の場として子どもの継続した生活や遊びのあり方や過ごし方を共有するよう取り組んでいます。
27 ② 子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供を行っている。	A	入会時には、保護者に写真掲載の同意書ももらっています。記録は鍵付きのロッカーに保管されて管理しています。
(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。		
28 ① 利用希望者に対して必要な情報を提供している。	A	利用希望者には入会のしおりを配布しています。しおりは毎年更新して、より見やすいしおりになるようにしています。クラブ内には子どもの製作した作品や製作している様子の写真を掲示しています。入会説明会では学童クラブの生活や年間の行事計画などについて詳しく説明しています。
29 ② 学童クラブの利用開始・変更にあたり子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	A	おたよりは毎月発行し、変更があった時やイベント等は別紙でお知らせもしています。子どもたちには、8つのルールを分かりやすく短い言葉で伝える事で、学童クラブの生活を見通しをもって過ごせるように工夫しています。
(3) 子どもや保護者等の満足の向上に努めている。		
30 ① 子どもや保護者等の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	A	低学年中心のクラブのため、職員が工夫して簡単にできて楽しく体を動かす遊びを毎日行っています。工作や昔遊び、チャレンジする遊びを色々取り入れることで、子ども一人ひとりがいきいきできることを目指しています。保護者とは連絡ノートやお迎えの際などに声をかけ、話しやすい雰囲気を作るようにしています。

評価項目	評価	講評
(4) 子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
31 ① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	A	保護者にはクラブに入会して良かったと思ってもらえるように信頼関係を築けるように対応しています。送迎の際や連絡ノート、電話連絡などで必要な情報を伝えるなど情報の共有をし、職員の子どもに対する姿勢や思いが伝わるように取り組んでいます。子どもたちにはなんでもアンケートを用意して職員に直接言えないことをいつでも自由に書けるようにしています。気になる内容が書かれていた場合は職員が子どもの気持ちを受け止め対応できるような仕組みを作っています。 要望や苦情があった場合はクレーム対応マニュアルに則って迅速に対応し、ミーティングで職員が共有しています。また、経過についてもミーティングノートに記載して、検討や振り返りを行えるようにしています。
32 ② 子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、周知している。	A	
33 ③ 子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	A	
(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
34 ① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制を構築している。	A	年度初めには危機管理担当者を決め、日常的な安全対策、事故・災害発生時対応、衛生管理、事後予防、おやつ提供、個人情報取り扱いの5場面で考えられるリスクに対応できるように取り組んでいます。毎月1回開催する危機管理会議では、各現場のヒヤリハット報告が行われており、全ての職員が共有できるようにしています。 今年度は、コロナ感染予防を最優先にした新しい生活様式を取り入れて、育成方法を模索しています。おやつ時や長期休暇等で昼食をとる時には、向かい合わせに座らないようにしたり、空いている教室を借りるなど空間に配慮しています。手洗いやうがい、マスク着用を促し、三密にならないように職員の声かけを徹底して行なっています。また、コロナ禍でも実施可能な状況を確認しながら、イベントを行えるよう取り組んでいます。 事故や災害が発生した時には、危機管理マニュアルに則って、子どもの安全を最優先した行動が出来るように毎月テーマを変えて避難訓練を行っています。
35 ② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	A	
36 ③ 事故・災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	A	

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

評価項目	評価	講評
(1) 提供する育成支援の標準的な実施方法が確立されている。		
37 ① 育成支援について標準的な実施方法を文書化している。	A	学童クラブに在籍する子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能になるように、法人の基本方針に基づいて目標を立て、年間計画書を策定しています。 毎日のミーティングを通して必要な支援の在り方や子どもたちにとっての最善の利益を考えながら、その場・その時に合った支援が出来るよう適宜見直しを行っています。
38 ② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	A	
(2) 子どもに対する育成支援の計画が策定されている。		
39 ① 育成支援の計画を適切に策定している。	A	当クラブの在籍児童は1, 2年生が8割となっているため、子どもたちが幼児期の発達の特徴が見られる時期となります。職員は身近にいて、子どもたちにとって安心して頼ることができるよう、見守りながら育成支援を行っています。 年間計画は前年度の総括を踏まえ、職員間で確認しながら策定しています。月間プログラムについては、ミーティングを通じて翌月の計画を立てています。毎月の行事は、前月の反省を活かしながら計画内容の見直しを行っています。また、社会情勢や学校行事なども踏まえ、子どもたちの心身の状況に合わせて見直しをするようにしています。
40 ② 定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている。	A	
(3) 育成支援実施の記録が適切に行われている。		
41 ① 子どもに関する育成支援の記録が適切に行われ、職員間で共有している。	A	毎日3回行う職員ミーティングで前日の子どもの状況や当日の流れの確認等を行っています。内容はミーティングノートに記載され、参加できなかった職員も情報の共有をできるようにしています。 記録については法人の「個人情報保護規定」に則って適切に保護されています。個人情報を扱うPCはインターネットの接続を行わないこととし、個人情報を含むファイル操作や保存をしないことを徹底しています。
42 ② 子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している。	A	

IV 学童クラブの活動に関する事項

IV-1 育成支援

	評価項目	評価	講評
(1)子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備			
43	① 子どもが安心して過ごせる生活の場としての環境を整備している。	A	学校内に設置されている学童であるため、学校の生活から引き続き、安心して過ごせる場となるよう、学童内のルールは学校に準じるように設定されているため、子どもたちにとってわかりやすい環境設定になっています。
(2)学童クラブにおける育成支援			
44	① 子どもが学童クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している。	A	子どもたちが自ら発信できるよう「聞いてよBox」を設置し、子どもたちの意見を広く拾いあげています。また拾い上げるだけではなく、どのように子どもたちに返答したのかまで記録に残しています。これらの子どもたちからの意見を基に「子どもサミット」を開催し、子どもたちが主体的に学童での生活を送れるよう支援しています。
45	② 子どもの出欠席を把握し、適切に援助している。	A	子どもの出席管理は月ごとに保護者に記入してもらうとともに、必要に応じて保護者へ連絡を入れたりするなど、適切に行われています。
(3)子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援			
46	① 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるように援助している。	A	学童内のルールが子どもにもわかりやすい言葉で掲示されており、少し難しい言葉は年度初めに説明をし、子どもたち全員が共通したルールを持ちながら生活をする事ができています。またこれらのルールを守ることで、基本的な生活習慣が身に着くよう支援しています。
47	② 日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるように援助している。	A	毎月購入する本やゲームは職員で協議をして購入し、特に高学年の子どもたちが過ごすことができるよう、ボードゲームや書籍の購入を意識して行っているとのことでした。これらの高学年用のゲームは下の学年の子どもたちと高学年の子どもたちとをつなぐ役割もしており、自然と交流できる環境になっています。
48	③ 子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している。	A	

	評価項目	評価	講評
49	④ 子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している。	A	前出の「聞いてよBox」を活用して、子どもたちが積極的に自分の意見を表現できる場を作っています。また興味深い学童内の取り組みとして「チャレンジカップ」があります。様々なチャレンジを職員が設定し、いつも同じ子どもたちが表彰されるのではなく、普段は目立たない子どもたちでも表彰される機会を作ることで、子どもたちが互いの良さを認め、子どもたち同士の関係性をより豊かにするように心がけています。
50	⑤ 子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している。	A	
(4)固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援			
51	① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受け入れに努めている。	A	障害のある子どもたちを受け入れる際には保育園への見学や面談を行い、保護者の求めていることをなるべく理解した上で受け入れる、という基本的な姿勢を持っています。障害のみならず、支援の必要な子どもたちが少なからずいる中で、その支援について職員と保護者で調整に心がけている点、それを丁寧に記録として残しています。一方で支援をしていく際には支援の計画を作成までには至っていません。対象となる子どもたちの記録や面談の記録が残っているため、それらを基に、学童では1年間どのように支援をしていくのか、その方向性や具体的な支援方法などを保護者や職員間で共通認識を持るとなおります。
52	② 障害のある子どもの育成支援に当たった際の留意点を踏まえ、育成支援を行っている。	B	
53	③ 児童虐待の早期発見に向けた取組や適切な対応を行関係機関と連携している。	A	虐待等への対応は、学校内という立地を生かして、学校との連携が取れています。特に支援の必要な子どもに対してはノートを作成し、職員内で気になったことを書き留めておくシステムを作っており、必要に応じてすぐに通報できるように整えています。また外国にルーツのある子どもたちへの理解のために国旗当てクイズをしたりすることで自然と楽しみながら、互いを理解する取り組みを行なっています。
54	④ 子どもの国籍や文化、習慣等の違いに関わらず、互いを認め合い理解を深めるような取組を行っている。	A	
(5)適切なおやつや食事の提供			
55	① 放課後の時間帯におやつを適切に提供している。	A	毎日の子どもの帰宅時間をミーティングで確認しながら、低学年から提供をしています。特に高学年は下校時刻が遅いため、本人の希望する形での提供にするなどの工夫がされています。またおやつ提供について、今年度マニュアルを更新しています。特にアレルギー対応については、誰がみても分かりやすくなるよう写真付きにしたとのことで、おやつに関する安全管理の徹底の意識が職員間で共有できています。
56	② 食に伴う事故(アレルギー、窒息、食中毒等)を防止するための対応を行っている。	A	

評価項目	評価	講評
(6)安全と衛生の確保		
57 ① 子どもの安全を確保する取組を行っている。	A	毎月法人にヒヤリハット、事故報告書を提出しており、地域の同法人の一覧を確認する事ができるとのことでした。これを活用する事で本施設についても、安全確認を再度行う事ができています。また同様に同法人内の衛生担当者会議が月に一回開催されており、上記同様、最新の情報を施設内で共有出来ています
58 ② 衛生管理に関する取組を適切に行っている。	A	

IV-2 保護者・学校との連携

評価項目	評価	講評
(1)保護者との連携		
59 ① 保護者との協力関係を築いている。	A	コロナ禍で保護者会の実施方法には苦慮されていますが、個人面談やお迎えを利用して保護者との連携を図っています。保護者にも子どもたちの学童の様子を見てもらえるように、廊下に写真や作品を掲示したりと工夫をしています。ただし現状、お迎えにくる保護者も少なく、今後の保護者との双方向の情報共有は課題として挙げています。
(2)学校との連携		
60 ① 子どもの生活の連続性を保障するため学校との連携を図っている。	A	学校内の立地を生かして、子どもたちの担任との連絡を密にする意識を常に持て、積極的に担任との情報交換の機会を作っています。年度初めには1年生の担任とは合同の打ち合わせを行い、特に連絡を密にする取り組みをしています。

IV-3 子どもの権利擁護

評価項目	評価	講評
(1)子どもの権利擁護		
61 ① 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	A	子どもたちの直接的な声を拾える「聞いてよBox」を活用して、子どもたちが自分たちの声を上げやすくなるような環境を整えています。また、状況に応じて子どもの擁護に関して、子ども家庭支援センターと連携して取り組んでいます。

総 評

◇特に良いと思われる点

● 現場責任者のリーダーシップが発揮されています

今年度評価を実施するにあたり訪問調査を実施した際に、あらゆる資料が整理整頓され、どの資料がどの調査項目で必要になるのか、各資料にはナンバリングがされていました。また施設を運営する中で様々なマニュアルが必要になりますが、それらのマニュアルは施設長が気付いた際にすぐに新しいものに更新され、「いつ」「どの部分」が「どのように更新されたか」といったことまで記入されていました。マニュアルが単に置いてあるだけでなく、実効性のある、実用性のあるものとして活用されていました。これらは施設長が常に支援の最前線に立ちながらも、施設全体を俯瞰して見ることができ、子どもたちが安心して安全に過ごすことのできる場所の提供に常に意識を向けている結果であると考えられます。

● 誰にとっても分かりやすいマナー、ルールによる子どもへの援助や支援が行われています

育成室の正面に、学童での過ごす際のマナーが掲示されています。これらは誰にとってもわかりやすい表現で書かれており、大人の社会でも通じる社会のマナーやルール、お願い、などです。新年度と夏休み前などは全員で内容の一つ一つを確認し、子どもも職員も共通して理解するようにしています。そのため子どもたちが不適切な行動をした際には掲示と一緒に確認することで子どもたちに守ってもらいたいマナーを再確認できます。また職員の子どもたちへの対応の基準ともなっているため、子どもへの援助や支援に対する共通した認識を持ち、誰が対応しても同じ対応をすることができます。

◇更なる改善が望まれる点

● 職員の個別研修計画の作成が望まれます。

現場責任者がリーダーシップを発揮し、全職員が共通意識をもって業務に取り組んでいます。一方で、各職員への育成計画が作成されておらず、系統的な人材育成を十分に行えているという状況ではありませんでした。人事に関する面接自体は行われているので、各職員がどのように短期・長期目標を設定し、そのための方略はどのようにするのか、といった育成計画を立案していくことが望まれます。研修会への参加についても多様な研修がある中で、だれが、いつ、どのような研修を受けているのかといった年間計画に加え、一職員が5年程度のスパンで、どのような研修を受け、どの研修が足りていないのかを把握することで、職員のスキルアップにもつなげていけるような育成計画の作成が望まれます。

● 支援の必要な子どもたちの個別の支援計画の作成が期待されます

障害のある子どもたちを受け入れる際には保育園への見学や面談を行い、保護者の求めていることをなるべく理解した上で受け入れる、という基本的な姿勢を持っています。障害のみならず、支援の必要な子どもたちが少なからずいる中で、その支援について職員と保護者で調整に心がけている点、それを丁寧に記録として残しています。一方で支援をしていく際に上記を基にした支援の計画を作成までには至っていません。対象となる子どもたちの記録や面談の記録を基に1年間どのように支援をしていくのかの方向性や具体的な支援方法などを保護者や職員間で共通認識を持てるように取り組むことを期待します。